

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成31年 3月 29日

仕事の内容	敬老金支給事業				
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 2	-
【施策名】 高齢者保健福祉の推進	総合計画書(ページ)	51	

予算名	款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	老人福祉費	事業	5	高齢者慶祝事業
-----	---	---	-----	---	---	-------	---	---	-------	----	---	---------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 9月15日現在で88歳、99歳の市民	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 65歳以上の市民(毎年9月1日付の数値で計測)
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 敬老の意を表されることで、生活意欲の向上と生きがいの増進に繋がっている	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 支給者数
	③ そのために何をしましたか。 9月15日現在で88歳、99歳の市民に対して、5,000円を支給した。9月15日から30日の間に民生委員が個別に訪問し、直接渡している。	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 9月15日現在で88歳、99歳の市民

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	22,103	22,484	22,754	
	成果指標	②の数値	人	262	296	350	
	目 標	②の目標値					
	目標設定の考え方 年度ごとに対象者が決まっているので、目標を設定するにはなじまない。						
	活動指標	③の数値	人	88歳 248 99歳 14	88歳 280 99歳 16	88歳 336 99歳 14	

3 経費	事業費(実績)		円	1,310,000	1,480,000	1,750,000	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	1,310,000	1,480,000	1,750,000	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.05	0.05	0.05	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	413,350	412,650	412,200	
	職員人件費(再任用)	円	0	0			
事業費+人件費		円	1,723,350	1,892,650	2,162,200		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大い

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 昭和33年、東京都の敬老金支給事業にあわせ、祝品を贈呈することから始まり、その後、現金を支給するようになった。 高齢者に対して、敬老の意を表すことを目的としている。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 東京都の敬老金支給が75歳以上を対象としていたのに対し、本市(当時は「大和町」)は70歳以上を対象としていた。昭和51年度からは9月15日と12月15日の2回支給していたが、平成12年度からは9月15日の1回のみでの支給に変更された。その後、平成13年度から平成27年度までは(77歳、88歳、99歳)の節目での支給となっている。高齢者数の増加に伴い、平成28年度からは、支給対象者が88歳と99歳に見直された。また、近年は高齢化の進展に伴い単身高齢者や高齢者のみ世帯が急増し、問題の早期発見や孤独死・孤立死を防止するため、実態把握も兼ねている。

仕 事 の 内 容	敬老金支給事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名	伊野宮 崇

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について					
	特になし					
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）					
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点					
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容					
	99歳の敬老金の支給は、100歳を対象とする長寿祝金の支給と連続する。 慶祝事業については、公費を支出することに議論がある。					
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。					
	公費を充当することの意義について検討した。					
	(3)(2)を踏まえた今後の課題					
8 今後の方向性	特になし					
	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）					
	特になし					
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等					
	特になし					
成果	(3)改革・改善案による期待成果					
	上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。					
成果	成果を維持する。				経費	仕事の経費は維持する。